

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102127		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム御領 (複ユニット)		
所在地	熊本市東区御領3丁目8-52		
自己評価作成日	令和5年3月13日	評価結果市町村受理日	令和5年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①コロナ禍でも開かれたホーム作り ・一昨年まではリモート面会をメインに行っていたが、令和3年度は、年間を通し窓越し面会・対面面会(パーティション・フェイスシールド使用)を実施しご家族の安心感に繋がった。</p> <p>②主治医及び他医療機関との連携 ・主治医(わかばクリニック)との連携はもとより、主治医と協力し、整形外科・精神科・皮膚科との連携も構築できた。特に整形外科に関しては、主治医、整形外科、施設と協力し「後方支援病院」として、救急搬送時の対応が迅速に出来る様協力して頂ける事になった。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して5年というホームでは、開かれたホームとして玄関を開けることからスタートし、自治会長等へ挨拶回りをしながら運営推進会議の対面開催に向け始動している。管理者を中心として一致協力しながら“一体感のある組織作り”に取り組み、買物支援等の個別ケアと、室内での行事、特に敬老会では家族の協力を得てプロジェクターにより入居者の若かりし日を振り返る等職員の創意工夫が随所に表われている。外出の制約には、食で楽しむ等入居者を真ん中にして様々な計画を立て、笑って過す環境等により伸びやかな生活を支援している。地域密着型事業所として保育園との交流等この地に根付くよう次のステップへ向けた取り組みや、家族会も再スタートされており、家族会とともにあるホームが形成されることと大いに期待したいホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を受け、ホームとしての理念を掲げそれをホーム各場所に掲示し朝礼時唱和し共有している。今後、理解し実践する事を目標とし、勉強会の必要性を感じている。又、開設5年となり、理念を見直し、新たな理念も検討している。	開設に当り職員で検討した理念は、読み上げることで意識を持って日々のケアに反映させている。また、全員で振り返り、今年度はテーマとして“一体感のある組織作り”を掲げ、安心して過ごせる環境を目指すとともに、コロナ禍に室内行事を工夫しながら楽しみのある日々を支援している。また、“開かれたホーム”として、理念の他、日常生活をホームページで開示する等透明性のある運営である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、なかなか地域との交流が出来てない状況にある。そんな中で昨年暮れに近隣保育園のご協力を得、感染状況を見ながら、今後の交流についての話し合いが出来た。	近くの保育園と連絡を取り、屋外音楽会に参加しながら次のステップを検討する等、地域の中での生活拡充に努めるとしている。また、管理者は、開設5周年に当り、自治会長宅に挨拶に出向き運営推進会議の開催等今後の方向性を決めている。	食事の様子(食が進まない)から家族とファミレスで食事を共にする等地域の資源を活用しているが、コロナ禍の中で入居者が近隣住民と交流する機会は少なく、小学校や保育園、その他の社会資源を活用しながら、地域の中での生活拡充に取り組まれることが期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、出来てないのが現状です。現在、ささえりあ保田窪様が行われている「認知症家族の会」に何らかの形で協力出来ればと考えています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染を理由に対面での開催がなかなか出来ていない為、外部の方々意見を聞くことがあまり出来ていない。3月度からは、1名委員が増え、対面での開催を予定している。	運営推進会議は書面審議として利用状況や事故報告等を記し、書面配布により開催している。メンバーとして自治会長や自治会の相談役、地区社協会長、住民代表、地域包括支援センター等充実しているが、調剤薬局や民生委員にも参加を依頼し、対面での開催が予定されている。	運営推進会議に参加される委員もこれまで以上に充実してきており、ホームの課題のみならずホームを取り巻く課題を提議しながら話し合う等検討頂きたい。委員の皆さんから多くの意見や提案等を引き出しながら、今後のあり方を検討する場となることが期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告事案事故は、介護指導室へ1W内にメール送信を行う様心掛けている。コロナ感染状況についても報告し、助言を頂いている。又、メールでのアンケート等も納期内回答を実践している。	行政には何事も気軽に相談出来る関係を築いており、コロナ感染状況など保健所の指導を受け対策を講じたり、市役所にも随時報告している。また、事故報告の提出に出向きながら情報交換を行い、地域包括支援センター主催の「認知症家族の会」にも協力する意向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、委員会・勉強会・新入社員研修は実施しているが、コロナ禍で第三者の参加や意見交換が手薄になっている。又、1年半前赴任したが、その後日中玄関しない取組継続出来ている。その他、拘束に関しても職員の意識高まっていると思う。	玄関には身体拘束廃止宣言を掲げ、身体拘束適正化委員会で、不適切ケアチェックとアンケート(実際に自分が感じる拘束とは何か)及び勉強会の中でも拘束と感じた場面やそのときの気持ち等をアンケート方式で収集している。入居してしばらくは帰宅願望はあるものの、家族との話し合いや職員の関わりにより落ち着いた生活に繋げる等入居者個々の状況を把握し、玄関を開放し自由な住空間としている。	管理者は職員の言葉使いには注意喚起している。更には、職員同士が注意を喚起できる関係性が築かれることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上を図る為に3ヶ月に1度の不適切ケアチェックを行って虐待が起こらないよう又見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修資料や内部研修にて理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の時点で料金表の提示を行い、事前に居宅CMさんにも伝えるようにしている。入居時は、重要事項説明書等を項目毎に承諾を得ながらの説明を心掛けている。改定時は、文書の交付・同意書への署名・捺印にて理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を表して頂く機会としては、担当者会議・面会時・電話連絡時がメインとなっているが、その他に、意見箱の設置をし、重要事項説明書に行政の相談電話番号も記載している。	家族には担当者会議の中で意見や要望を聞き取りする他、家族会の中での了承事項として面会はホーム内に入れるようにすることや年2回家族とともに衣替えを行うこと、家族と一緒に居室の窓拭きを行うことで入居者に家庭の雰囲気を感じて頂く等、コロナ感染症の緩和により家族会が始動し始めている。ホームからの情報発信(ひだまり新聞やブログ等)は、日常や非日常生活(四季折々のホーム内行事等)を見ることができ、家族にとっては安心できる事例の一つである。	家族会を年に2回開催することが決定し、家族向けに勉強会も組み入れるとしており、家族会が今後のホーム運営に更に反映されることと大いに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は身近にいるので面接等で職員の意見提案を聞く機会多いと思うが、代表者へは職員の意見等管理者が伝えている。	管理者は日々のケアの中でコミュニケーションを図り、毎月の会議では要望制として、個々の職員が意見や要望等を持ち寄り話し合う体制として、職員からの要望等は管理者を通じて上申している。管理者会議(月1回)では法人全体の話し合いや現場の要望等を話し合う機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者を交え月に1度の会議でホームの報告は行うが職員さんが向上心を持って働ける環境には至ってないと感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍もあり、ホーム内研修が殆どである。最近では協力医様に外部講師をお願いし認知症勉強会等を開催し少しずつではあるが、外部研修に目を向けていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中殆ど出来ていない為、ホームとして同業者とコンタクトをとる程度である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者は入所前必ず、ご自宅や入居先（施設・病院）を訪問しご本人との面談を重ね又CMさんからも情報も細かく頂き入所後の安心と信頼作りに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の面談の時点でまず介護で困っている事や困難な事・精神面を聞くように心掛けている。そこから何度か面談を重ね情報交換をしながら入所に至るケースが殆どである。時には、状況に合わせて他施設を紹介するケースもある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の段階で一番気をつけている点で、当施設に入るのが一番良いとは思っていないので、色々な角度から本人様・ご家族の意見を聞き見極める様努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まず、入所時の情報を職員全員が回覧等で把握し共通認識をもつ様にしている。家庭の延長・家族の一員という事で、一人一人の思いに寄り添いながら暮らしていければと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあるが、対面面会・窓越し面会を駆使しながら時には職員も一緒に入り面会したり、家族のお気持ちも大切に、出来事等報告するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなかうまくやれていないが、感染状況が緩んだりしたら、ご家族と家に帰り仏様にお参りしたり、娘様の手作り料理を食べたりと出来る限りの支援には努めている。	面会（今のところ家族中心）や、正月や法要に帰省が叶った入居者、家族との外出、受診時には買物や自宅で短時間ではあるが過してもらおう等今できる限り馴染みの関係が途切れないよう支援している。ホーム内では入居者の出番を多く作り、年間を通じて慣習等を支援している他、料理を手伝いながらのノンアルコール、入浴後はワインとチーズ（家族の提供）とこれまでの生活を崩すことなく過される入居者等生活習慣を継続させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや職員が間に入りご利用者同士の会話が生まれ孤立感や孤独感をできるだけ感じ事のないように努めている。テーブル席の配交換も定期的に状況を見ながら調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じてご本人、ご家族からの相談や情報提供依頼への対応、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議等でご本人、ご家族から伺っている希望、意向を大切に、日々の暮らしの中で変化していくご本人の希望にも柔軟に対応するように努めている。定期的にカンファレンス等で話し合い職員間情報共有し対応している。	職員は日々の関わりの中で入居者に意向を聞き取りし対応する事として、入居者に寄り添いながら思いを引き出している。発語困難や意思疎通も難しい状況もあり、はっきりとは聞き取れなくても職員は聞き取ろうとする心を持ち、表情や行動から推察したり、開かれた会話に努め、家族の情報を生かし、本人本位の生活になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前CMさん等の情報を中心にこれまでの暮らし方を把握し、ご家族よりお聞きし情報収集し職員間で展開していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを元に電子入力システムを活用しただけ入力するだけにとどまらず、データ化し協力医等と共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成だけでなくカンファレンスでの他職員の意見やご家族、ご本人の意見、意向を参考に現状に即した介護計画が作成できている。	個々のニーズを引き出し、変化があれば再度作り直し、3ヶ月毎のモニタリング、ケアマネジャーによる本人・家族の満足度や援助目標の達成度を見極め、新たにプランを作成する等現状に即した個別的なプランを作成している。ケアマネジャーと担当職員とによる評価、ケアカンファレンスでは問題点を明確にして話し合い、家族を含めた話し合いにより方向性を検討し、同意を得てプランを策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌等を電子化した為、知りたい情報を素早く入手し職員間で展開出来る為、迅速な介護計画の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な訪問診療、訪問マッサージ、訪問理美容。整形や精神科さんとも医療連携を行い迅速な対応が出来るように取り組んでいる。特に、精神科受診時は家族と職員とで受診する様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状下では出来ない状況であるが終息時にはボランティアの協力依頼や地域行時にも積極的に参加していく。R5年度からは地域の保育園さんとの交流も始める予定。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃よりかかりつけ医様とは意見交換ができ、ホームに毎日往診というシステムなのであんしんである。又、今年度より、整形外科・精神科様とも医療連携を結んだ為より適切な医療が提供出来ると考えている。	全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、訪問診療が行われている。かかりつけ医とは24時間連絡が取れる体制である。新たに整形外科との協力体制やこれまでも協力関係にある調剤薬局へ、運営推進会議メンバーに依頼予定であり、医療体制の充実が期待されている。歯科は定期的に必要な方のみ診察が行われている。服薬は3～4重チェックを徹底し、誤薬を防いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師は常勤で2名おり介護士よりの情報に瞬時に答え良好な関係性にある。又、医療機関の訪問看護とも連携している為適切な看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、ご本人の状態把握するとともに安心できる入院生活が送れるように、また早期の退院が出来るようにご家族と入院先の相談員等と緊密に情報交換するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれ訪れるであろう重度化や終末期については入居時や担当者会議、状態変化時に説明、意向の確認を行うようにしている。看取り時に入ったらより主治医との情報交換を密にし、都度家族の要望を聞きながら取り組んでいる。	入居申し込み時に重度化及び看取り支援について説明している。本人・家族からの要望があれば意思確認覚書を交わし、今年度は1例の看取りケアに取組み、訪問診療及び訪問看護との連携とともに、家族にも居室での面会を工夫し最終章に寄り添っている。支援後は本人を偲びながらカンファレンスを開催している。重度化・終末期支援に関する研修会(年1回)により共有化としている。管理者はコロナ禍の中、入居者と家族が如何に一緒に過ごしていただけるかを今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル作成し、内部研修で事例を交えながら急変や事故発生時に備えて応急処置や対応の指導を看護師よりおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関する訓練は定期的に消防署通報訓練も含め行っている。災害時の備蓄品に関しては、賞味期限等も確認しながらその都度補充を行っている。又、業者様による2回/年の点検も実施している。	今年度の避難訓練は1回目を防災業者の参加を得、夜間想定で、2回目は新人職員を中心に消火器の使い方を学んでいる。自然災害については、改めた訓練は実施されていない。地震以降常に備蓄はリストをもとに準備し、確認も定期的に行っている。日々の安全チェックは毎朝の掃除の際、コンセントの埃を含め確認している。	内部監査の際、消防訓練後の記録内容について指摘を受けており課題としている。自然災害への取組と合わせ今後の取組が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	3か月に1回の不適切ケアチェックシートを職員に配布し日ごろのケアの振り返りを行っている。またスピーチロックについてのアンケートを行っている。	不適切ケアのチェックシートやスピーチロックについてのアンケートを実施し、ケアの振り返りやストレスの軽減にも繋がるようにしている。呼称は苗字や下の名、これまでの呼ばれ方など家族にも確認している。入居者がその人らしい暮らしが継続できるよう、家族の協力も得ながらの居室の環境作りや、お気に入りの髪型や衣類の着用、風呂上りにスポーツ飲料で赤ワインを割って飲まれる方など個別支援も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけには十分に配慮しゆっくりと会話ができるように心がけている。できるかぎりご利用者の意に沿えるよう心掛けている。聞くことを大切にしたいと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員さんによりすごく差があると思う。ご利用者中心でないような場面も見受けられる。改善したいが難題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットについては訪問理美容サービスを活用している。個々の身だしなみに注意し入浴後の更衣もできるだけ本人の意にそぐわないことがないように努めている。衣替え等ご家族の支援も頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうな盛り付け、行事等で季節感を取り入れたり、手作りおやつをご利用者と一緒に作ったりしている。一部の方には準備や片付けを手伝ってもらっている。個々の好みに応じて工夫し美味しく、美しく食事をさせていただきよう心掛けている。	献立は以前管理栄養士が作成したものを家庭的にアレンジしながら使用し、専任者を中心に調理されている。入居者に絵で示しながらの嗜好調査等工夫し、見当識として1日は赤飯を提供している。父の日はノンアルコールで祝ったり、行事食、持ち帰り弁当など入居者が食を楽しめるよう取り組んでいる。	入居者は茶わん洗いやお盆拭き、庭で栽培したサツマイモの収穫などに取り組まれており、広報誌の中でも紹介されている。ホームでの調理は音や匂いなど入居者の食事への楽しみを増してあり、継続した取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いや疾患に応じた摂取量の違い等を配慮し、調理や盛り付けを工夫している。水分摂取には嚥下状態も見ながら水ゼリーを味を数種類に分け提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科訪問診療、指導を受けている。毎食後の口腔ケアを欠かさずに行い夜間帯は義歯を除菌し清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の生活の中で個々の排せつパターンを把握し、こまめに声かけ・誘導することにより失禁を減らしトイレでの排せつが継続できるよう支援している。極力オムツを使わずショーツで暮らせるよう支援を行っている。	日中はトイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレやオムツを使用される方、布パンツで過ごされる方など、個々に応じて検討し対応している。職員の連携により入居当初はリハビリパンチから、布パンツへの移行など自立に向けて取組、居室でのオムツ交換に、折り畳んだ新聞を置き、速やかに処理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者によってはヨーグルト、ヤクルト等を提供するなどスムーズな排せつができるよう支援又、腹部マッサージ・ウォシュレット使用等工夫している。医師からの指示があるご利用者は下剤の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の状況を見ながら対応し入浴支援に努めている。特浴設置により車椅子の方も負担が少なく入浴できるようになった。	入浴は時間帯や同性介助への希望に応じながら週2回の支援や体調次第では回数を調整し清拭で対応している。身体状況によっては履ユニットに備わった機械浴の利用や、重度化された方には安全面を考慮し、看護職員の勤務時に支援している。イベント湯として菖蒲や柚子湯の継続、時には入浴剤を使用し色や香りを楽しまれている。また、好みのシャンプー類を個別で準備される方もおられる。入浴後は保湿と水分補給に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々に応じた、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者はその時々状態に合わせて休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人のカルテ内にとじ職員が把握できるようにしている。薬は看護師管理の元所定の場所に保管している。又調剤薬局との連携によりより安全な服薬支援が提供出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	徐々に出来る事が少なくなっている現状を含め、今できる事を職員が探さず一緒にいき喜んで頂き自信を持てる様している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は現在行っていないがテラスへの出入りは常時開放しておりプランターにて季節の花や野菜の栽培をしている。洗濯物を干したり思い思いに行動できるように支援している。そんな中でも車中からではあるが花見・紅葉見学は実施出来た。	コロナ禍により外出も難しい状況ではあるが、車中より花見や紅葉見学等支援している。近隣のファミレスで家族との食事や、また受診外出を利用して自宅に帰った方など家族の協力も得ながら個別に支援している。「裏庭の芝生スペースを畑にすることで外出や食材への活用にもつながるのではないかと職員からの要望もあがっている。	近隣の保育園代表者が新たに運営推進会議メンバーとなられることから、今後双方の交流が外出の機会に繋がっていくことが期待される。テラスでの日光浴など普段の取組も家族へ伝えることで安心につながるものと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が金銭管理が難しくご家族から同意をいただき事業所にて預かり本人の希望にて買い物支援なども行っている。時には受診の帰りに職員とコンビニに寄られるケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在娘様との文通されている方が1名 携帯電話持込の方が2名おられ自由にされている。その他の方はご家族のペースで電話頂いたり、こちらからかけられるように声かけ等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、床暖房を使用しておりご利用者に優しい環境になっている。壁や居室入口には季節感があるものを掲示する様心掛けています。又、月2回(1日・15日)ご利用者様による生け花で玄関に花を飾るようにしている。	玄関先には来訪者を迎えるメッセージボードが置かれている。リビングは開放感があり入居者の一緒に作成した壁面の掲示や、天井には季節に応じた飾り物(訪問当日は桜であったが秋には赤とんぼが舞う様子など)を下げる等、職員のアイデアが生かされている。共用空間は入居者の状態に応じ室温を管理する他、床暖房により優しい環境である。日中はリビングを中心に思いおもいに過ごされており、テレビを鑑賞したり、入居者同士、入居者と職員とのやり取りなど穏やかな光景が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはリビング中心になっておりご利用者が談笑されたり、テレビ鑑賞されたり、歌詞カードや大正琴の演奏に合わせて童謡を歌ったりと思思いに過ごせるよう支援している。テラスには椅子を配置してゆっくり一人の時間を過ごせる工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が書かれた絵やご家族との写真を飾ったりして心地よく過ごせるよう努めている。基本的には危険物以外は持込制限しておらずご家族と一緒に職員も協力しながら空間作りに工夫している。	居室への持ち込みは危険性の無いものであれば制限がないことを伝えている。大好きな猫を描いた絵、家族の写真や年月を感じるアルバム、置時計、使い慣れた保湿剤など本人にとって思い出や馴染みの品が置かれている。洗面台や衣類用チェストが配置され、寝具は季節に応じて必要な物を家族が準備されている。持ち込まれたスタンドハンガーが手すりとなり、転倒の危険性が心配される方にはキャスターを外すなど配慮している。居室入り口の飾り棚は、季節の飾り物や本人の写真、担当職員が用意したおみくじなど工夫した住空間である。	居室は家族がいつ訪問しても安心されるよう、掃除や整頓を心掛けている。5周年の祝会の後には、家族に居室を見てもらう時間が設けられている。家族が中心となり、居室の環境が更に充実するものと期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が使われる場所などわかりやすく表示をしたりしている。ご本人ができることは多少時間がかかっても見守りながら行っていただいている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102178		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム御領 (桜ユニット)		
所在地	熊本市東区御領3丁目8-52		
自己評価作成日	令和5年3月13日	評価結果市町村受理日	令和5年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①コロナ禍でも開かれたホーム作り ・一昨年まではリモート面会をメインに行っていたが、令和3年度は、年間を通し窓越し面会・対面面会(パーティション・フェイスシールド使用)を実施しご家族の安心感に繋がった。 ②主治医及び他医療機関との連携 ・主治医(わかばクリニック)との連携はもとより、主治医と協力し、整形外科・精神科・皮膚科との連携も構築できた。特に整形外科に関しては、主治医、整形外科、施設と協力し「後方支援病院」として、救急搬送時の対応が迅速に出来る様協力して頂ける事になった。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を受け、ホームとしての理念を掲げそれをホーム各場所に掲示し朝礼時唱和し共有している。今後、理解し実践する事を目標とし、勉強会の必要性を感じている。又、開設5年となり、理念を見直し、新たな理念も検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、なかなか地域との交流が出来てない状況にある。そんな中で昨年暮れに近隣保育園のご協力を得、感染状況を見ながら、今後の交流についての話し合いが出来た。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、出来てないのが現状です。現在、ささえりあ保田窪様が行われている「認知症家族の会」に何らかの形で協力出来ればと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染を理由に対面での開催がなかなか出来ていない為、外部の方々の意見を聞くことがあまり出来ていない。3月度からは、1名委員が増え、対面での開催を予定している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告事案事故は、介護指導室へ1W内にメール送信を行う様心掛けている。コロナ感染状況についても報告し、助言を頂いている。又、メールでのアンケート等も納期内回答を実践している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、委員会・勉強会・新入社員研修は実施しているが、コロナ禍で第3者の参加や意見交換が手薄になっている。又、1年半前赴任したが、その後日中玄関しない取組継続出来ている。その他、拘束に関しても職員の意識高まっていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上を図る為に3ヶ月に1度の不適切ケアチェックを行って虐待が起こらないよう又見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修資料や内部研修にて理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の時点で料金表の提示を行い、事前に居宅CMさんにも伝えるようにしている。入居時は、重要事項説明書等を項目毎に承諾を得ながらの説明を心掛けている。改定時は、文書の交付・同意書への署名・捺印にて理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を表して頂く機会としては、担当者会議・面会時・電話連絡時がメインとなっているが、その他に、意見箱の設置をし、重要事項説明書に行政の相談電話番号も記載している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は身近にいるので面接等で職員の意見提案を聞く機会多いと思うが、代表者へは職員の意見等管理者が伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者を交え月に1度の会議でホームの報告は行うが職員さんが向上心を持って働ける環境には至ってないと感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍もあり、ホーム内研修が殆どである。最近では協力医様に外部講師をお願いし認知症勉強会等を開催し少しずつではあるが、外部研修に目を向けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中殆ど出来ていない為、ホームとして同業者とコンタクトをとる程度である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者は入所前必ず、ご自宅や入居先(施設・病院)を訪問しご本人との面談を重ね又CMさんからも情報も細かく頂き入所後の安心と信頼作り心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の面談の時点でまず介護で困っている事や困難な事・精神面を聞くように心掛けています。そこから何度か面談を重ね情報交換をしながら入所に至るケースが殆どである。時には、状況に合わせて他施設を紹介するケースもある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の段階で一番気をつけている点で、当施設に入るのが一番良いとは思っていないので、色々な角度から本人様・ご家族の意見を聞き見極める様努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まず、入所時の情報を職員全員が回覧等で把握し共通認識をもつ様にしています。家庭の延長・家族の一員という事で、一人一人の思いに寄り添いながら暮らしていければと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあるが、対面面会・窓越し面会を駆使しながら時には職員も一緒に入り面会したり、家族のお気持ちも大切にし、出来事等報告するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなかうまくやれていないが、感染状況が緩んだりしたら、ご家族と家に帰り仏様にお参りしたり、娘様の手作り料理を食べたりと出来る限りの支援には努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや職員が間に入りご利用者同士の会話が生まれ孤立感や孤独感をできるだけ感じ事のないように努めている。テーブル席の配交換も定期的に状況を見ながら調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じてご本人、ご家族からの相談や情報提供依頼への対応、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議等でご本人、ご家族から伺っている希望、意向を大切に、日々の暮らしの中で変化していくご本人の希望にも柔軟に対応するように努めている。定期的にカンファレンス等で話し合い職員間情報共有し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前CMさん等の情報を中心にこれまでの暮らし方を把握し、ご家族よりもお聞きし情報収集し職員間で展開していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを元に電子入力システムを活用しただけ入力するだけにとどまらず、データかし協力医等と共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成だけでなくカンファレンスでの他職員の意見やご家族、ご本人の意見、意向を参考に現状に即した介護計画が作成できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌等を電子化した為、知りたい情報を素早く入手し職員間で展開出来る為、迅速な介護計画の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な訪問診療、訪問マッサージ、訪問理美容。整形や精神科さんとも医療連携を行い迅速な対応が出来るように取組んでいる。特に、精神科受診時は家族と職員とで受診する様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状下では出来ていない状況であるが終息時にはボランティアの協力依頼や地域行時にも積極的に参加していく。R5年度からは地域の保育園さんとの交流も始める予定。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃よりかかりつけ医様とは意見交換ができ、ホームに毎日往診というシステムなのであんしんである。又、今年度より、整形外科・精神科様とも医療連携を結んだ為より適切な医療が提供出来ると考えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師は常勤で2名おり介護士よりの情報に瞬時に答え良好な関係性にある。又、医療機関の訪問看護とも連携している為適切な看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、ご本人の状態把握するとともに安心できる入院生活が送れるように、また早期の退院が出来るようにご家族と入院先の相談員等と緊密に情報交換するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれ訪れるであろう重度化や終末期については入居時や担当者会議、状態変化時に説明、意向の確認を行うようにしている。看取り時に入ったらより主治医との情報交換を密にし、都度家族の要望を聞きながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル作成し、内部研修で事例を交えながら急変や事故発生時に備えて応急処置や対応の指導を看護師よりおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関する訓練は定期的に消防署通報訓練も含め行っている。災害時の備蓄品に関しては、賞味期限等も確認しながらその都度補充を行っている。又、業者様による2回/年の点検も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	3か月に1回の不適切ケアチェックシートを職員に配布し日ごろのケアの振り返りを行っている。またスピーチロックについてのアンケートを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけには十分に配慮しゆっくりと会話ができるように心がけている。できるかぎりご利用者の意に沿えるよう心掛けている。聞くことを大切にしたいと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員さんによりすごく差があると思う。ご利用者中心でないような場面も見受けられる。改善したいが難題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットについては訪問理美容サービスを活用している。個々の身だしなみに注意し入浴後の更衣もできるだけ本人の意にそぐわないことがないように努めている。衣替え等ご家族の支援も頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうな盛り付け、行事等で季節感を取り入れたり、手作りおやつをご利用者と一緒につくったりしている。一部の方には準備や片付けを手伝ってもらっている。個々の好みに応じて工夫し美味しく、美しく食事をしていただくよう心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いや疾患に応じた摂取量の違い等を配慮し、調理や盛り付けを工夫している。水分摂取には嚥下状態も見ながら水ゼリーを味を数種類に分けて提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科訪問診療、指導を受けている。毎食後の口腔ケアを欠かさずに行い夜間帯は義歯を除菌し清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の生活の中で個々の排せつパターンを把握し、こまめに声かけ・誘導することにより失禁を減らしトイレでの排せつが継続できるよう支援している。極力オムツを使わずショーツで暮らせるよう支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者によってはヨーグルト、ヤクルト等を提供するなどスムーズな排せつができるよう支援又、腹部マッサージ・ウオシュレット使用等工夫している。医師からの指示があるご利用者は下剤の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の状況を見ながら対応し入浴支援に努めている。特浴設置により車椅子の方も負担が少なく入浴できるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者はその時々状態に合わせて休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人のカルテ内にとじ職員が把握できるようにしている。薬は看護師管理の元所定の場所に保管している。又調剤薬局との連携によりより安全な服薬支援が提供出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	徐々に出来る事が少なくなってきた現状を含め、今できる事を職員が探しまず一緒にいき喜んで頂き自信を持てる様している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出は現在行っていないがテラスへの出入りは常時開放しておりプランターにて季節の花や野菜の栽培をしている。洗濯物を干したり思い思いに行動できるように支援している。そんな中でも車中からではあるが花見・紅葉見学は実施出来た。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が金銭管理が難しくご家族から同意をいただき事業所にて預かり本人の希望にて買い物支援なども行っている。時には受診の帰りに職員とコンビニに寄られるケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在娘様との文通されている方が1名 携帯電話持込の方が2名おられ自由にされている。その他の方はご家族のペースで電話頂いたり、こちらからかけられるように声かけ等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、床暖房を使用しておりご利用者に優しい環境になっている。壁や居室入口には季節感があるものを掲示する様心掛けている。又、月2回(1日・15日)ご利用者様による生け花で玄関に花を飾るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはリビング中心になっておりご利用者が談笑されたり、テレビ鑑賞されたり、歌詞カードや大正琴の演奏に合わせて童謡を歌ったりと思い思いに過ごせるよう支援している。テラスには椅子を配置してゆっくり一人の時間を過ごせる工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が書かれた絵やご家族との写真を飾ったりして心地よく過ごせるよう努めている。基本的には危険物以外は持込制限しておらずご家族と一緒に職員も協力しながら空間作りに工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が使われる場所などわかりやすく表示をしたりしている。ご本人ができることは多少時間がかかっても見守りながら行っていただいている。		